

- 日 時 : 平成 31 年 3 月 11 日 (月) 午後 5 時～午後 6 時 41 分
- 場 所 : 武蔵野市役所 西棟 1 階 111 会議室
- 出席者 : 渡邊 大輔、中島 淳子、小美濃 妙子、佐藤 清佳、酒井 陽子、
春日 実穂、富田 尚美、青木 如男 (敬称略)

1 開 会 (略)

※委嘱状は机上配布

2 配布資料確認 (略)

3 委員及び事務局自己紹介 (略)

4 会長及び職務代理者の選出

資料 2 の武蔵野市シニア支え合いポイント制度推進協議会設置要綱第 4 条第 1 項の規定に基づき、会長に渡邊大輔委員が互選された。また、設置要綱第 4 条第 3 項の規定に基づき、会長が職務代理者に酒井陽子委員を指名した。

【会長】 この制度は地域づくりという部分と介護予防という部分があり、どちらのことを議論しているのかが分かりにくくなりやすく、議論が非常に難しい制度だと思っている。武蔵野市にとって、よりよいボランティアポイント制度はどういった形なのか、そのことを含めて議論していきたい。

【会長職務代理者】 ボランティア活動に積極的でない方に対して、この制度の良い点を丁寧に説明しご理解いただく必要がある。ボランティアに積極的に関わっていただかなければ、ボランティアとしての本来の意味がなされないのではないかと思う。そのあたりを議論していきたい。

5 議事

(1) 当協議会目的及びスケジュールについて

事務局より資料 2 について説明があった。

(2) 平成 30 年度事業実績報告

【委員】 還元状況の、還元なし 11 名というのは、11 名の方が手続に来たが、還元がなかったということか。

【事務局】 窓口に来たが、10 ポイントを満たしていなかったため還元しなかった方は、還元なしと記載している。

【会長】 活動をしたけれども、還元の手続をとってない方はこの報告には含まれていないのか。

【事務局】 含まれていない。

【会長】 活動者が還元に来なければ、活動者数が把握できないのはあり得ることだと思う。実際の活動者は全登録者の、おおよそ 3 分の 1 程度と考えて良いか。

【事務局】 そのように考えている。

【会長】 「季刊むさしの」の特集号記事のような広報活動は非常に良いため、様々な媒体で類似の広報を行った方が良いと思う。今回はどのような経緯で「季刊むさしの」の広報記事を作成したのか。

【事務局】 今年度から拡大実施期間となったため、広報に力を入れた。その一環で「季刊むさしの」で取り上げてもらえないか広報課に交渉し、枠をもらった。記事の内容については、地域支援課の担当者、市民社協の担当者等で協議し作成した。

【会長】 具体的な名前や顔が掲載されていると、顔が見える活動になっていくという側面もあるのでよい積み重ねになると思う。

(3) 平成 31 年度事業計画

事務局より資料 6 について説明があった。

【委員】 説明会開催スケジュールについて今後は東部地区での開催を予定しているか。

【事務局】 地区が偏らないように説明会の会場を設定していく。

【委員】 ボランティアはしているが、この制度を利用していない方もいるのではないか。

【事務局】 登録はしているが実際には活動していないサポーターはいると考えている。理由については把握できていない。制度発足当初は、既にボランティアをしている方が制度に登録をしていた。最近はボランティアをやっていない方々がこの制度に登録をするという形が増えている。ただ既に施設等で活動をしている方でも市民以外など、この制度を

利用していない方もいる。その方々はポイントの対象にならないため、各施設でうまく対応いただいている。また、登録をしても活動していない方が多くいるので、協力施設・団体のPRにもっと力をいれるなどの工夫をして、実際の活動者を増やす必要がある。

【会長】 活動してないサポーターに対してどういうアプローチをするかは考える必要があるポイントである。現在は、活動していない方に対しては情報提供など何かアプローチしているか。

【事務局】 年に1回ニュースレターを送り、還元の勧奨と現在の協力施設・団体についてお知らせしている。今後は、新規協力施設・団体の紹介やシニア支え合いポイント制度での活動内容を紹介する場を設けていきたいと考えている。協力施設・団体からご出席いただいている委員やシニア支え合いサポーターとしてご出席いただいている委員の中で、登録サポーターが活動していない理由が分かる方がいればお聞きしたい。

【委員】 親の家のサポーターの中では、還元してないという話は聞かない。サポーターの中で手帳を施設に置いている方がおり、そのような方は活動の後に本人の前でスタンプを押している。還元時期には本人に返している。しかし、一度サポーターとして活動しただけで、来なくなる方もいる。

【委員】 高齢者総合センターのデイサービスで活動しているサポーターは、還元物を得るためにやっている感じはしない。年に一人か二人程度、新規のサポーターが定着する。ポイント還元の手間などを簡略化する必要がある。

【委員】 受け入れ施設でまとめて還元することはできないか。

【委員】 協力施設・団体に還元できればサポーターの手間が省けると考える。

【事務局】 協力施設・団体に還元ができれば、回収率は高くなりそうか。

【委員】 当団体では極力事務手続は簡潔にするようにしている。団体にポイント還元を取りまとめることは困難。

【会長職務代理者】 この制度は、ボランティア活動へのきっかけづくりが大きな目的となっているため、ボランティアに消極的な方に対してアプローチする努力が必要である。横浜市のようにデジタル化することで事務手続が簡略化されるのであれば、それが一番効果的であると思うが、横浜市はデジタル化することでどの程度の効果がでているのか。

【会長】 横浜市が導入しているシステムはカードを使用しており、非常に簡潔なもの。しかし、横浜市はボランティアポイントの登録者が1万8000人を超えており、武蔵野市とは状況が異なっている。登録者が数百人の自治体がシステムを導入するのは反対であ

る。ただし、多摩地区全体など複数の自治体が協力してシステムを導入し、市をまたいでもポイントを共有できるのであれば、システム導入は意味があると思う。しかし、手帳にスタンプが押されていき、実績が分かることが楽しいという意見もあるため、導入は各市の状況次第であると考えている。

規模が大きく、ボランティア担当がいる施設は、還元手続きの管理ができるかもしれないが、福祉の会などは代表者が事務手続きをしているところも多く、還元手続きの管理をお願いすることは難しい。今後は小規模な協力施設・団体が出てくると思うので、大規模の施設とは事務手続きの大変さが違うという事を考慮していく必要がある。

【健康福祉部長】 市としては現状のポイント手帳を使用していく予定である。協力施設・団体に新たな負担を強いることは大変であるため、過剰な負担にならない方法を模索しながら進めて行く。

【委員】 手帳が大きいため、普通のポイントカードのサイズにしてほしい。

【会長】 実際に活動している委員はどのように思うか。

【委員】 手帳はその都度持って行く。現在の還元方法は負担にはなっていない。

【会長】 手帳のサイズについては様々な意見があるため、今後検討して行ってほしい。

【委員】 コストを最小限にして事業を進めて行ってほしい。

【健康福祉部長】 確実にしっかりと伝わる方法を検討しながら、無駄にならないように、精査をしながら行って行く。65歳到達者の被保険者証の通知にチラシを同封することは継続して実施する。

【会長】 この制度は介護予防と地域づくりという両方の意義がある。そのため介護予防に関しては、特に興味がない方に参加してもらうための周知はしっかりとやっていく必要がある。活動していない方が多いという議論について。横浜の調査では、活動していない方の理由は「忙しい」が一番多い。中でも女性は配偶者の介護で忙しいという事が多い。そういう方々が戻ってきやすい制度にする。また説明会に出たけど、一歩目が踏み出せないという方も多いようなので、そのような方々が活動しやすい制度にすることが大切である。

例えば講演会を開催し、その後協力施設・団体の紹介もする。またその場で活動先とのマッチングも行うなどの形で実施してもよい。アフターフォローができるような仕組みをつくっていくことが大切である。

【委員】 そのような場があれば、ぜひ参加したい。活動の紹介というのは役目の1つ

だと思っている。

【委員】 先日の説明会で活動内容の紹介をした。その際に勉強会の案内をしたところ2名が参加したため、説明会で活動紹介をすることは効果があると感じた。

【委員】 どのくらいの方がサポーターとして活動しているか分からないので、サポーターが集まって情報共有する場を設けることは良いと思う。

【会長】 サポーターの方が交流できるような機会を設けるのも面白い。ボランティアを集めたお祭りや慰労会のようなものを海外の情報を参考に行ってみるのも良い。また、協力施設・団体の方が説明会に来ていただき話をしてもらおうと印象に残りやすい。

【委員】 チラシの効果はどのくらいあるのか。

【事務局】 それぞれの広報媒体について、どれだけ効果があったかは把握していない。説明会の参加者は昨年度に比べて増えている。

【健康福祉部長】 チラシの内容を具体的な活動が分かる内容やより興味が持てる内容に見直す必要がある。

【委員】 説明会だけではなく、同時に講演会など付随したものと参加者が増えるのではないかと思う。

【委員】 この制度に関わらずボランティアがはすごく減ってきている。ボランティアに興味がない人に参加いただくために、魅力のある講習会や勉強会があればよいと思う。

【会長】 協力施設・団体の拡大について。東部の協力施設・団体が少ないという問題があるので、今後も努力を続けて少しでも改善して行ってほしい。次に協力依頼予定の施設・団体について。テンミリオンハウスやいきいきサロンに依頼をすることは問題ない。しかし、ポイント付与の対象者を誰にするのかが問題となってくる。いきいきサロンの場合、運営にかかわっている方は対象になるのか。あるいは、運営委員ではなく、参加者でもない方を対象にするのか。ポイント付与の対象をどう整理するかは重要な論点である。厳密に考え過ぎると、硬い制度になってしまうため、柔軟に考え、受け入れやすい仕組みを考えてほしい。

【委員】 夏体験ボランティアのような形で、活動していないサポーターを受け入れてもよいと思っている。

【会長】 続けなきゃいけないと思うと、一歩目はすごく怖いけど、お試しなので、嫌だったらやめてもよいと言われると、参加しやすくなるので、今の意見は重要である。踏み出しにくい一歩、二歩目を後押ししてあげるものをぜひ検討していただきたい。

【委員】 ボランティア保険の手続きや更新など不明な点が多い。もっとわかりやすく周知をしてほしい。

【事務局】 還元と同時に保険の更新をするということを明確に伝えていけるよう工夫をしていく。

【会長】 ボランティア保険に関しては、万が一のことを考えて、活動者全員が保険に入った方が良く考える。

6 その他

【事務局】 来年度については、別途お知らせをする。協議会の開催については、年1～2回を予定している。

7 閉会